

平成29年7月1日

斫木村安全衛生協議会会長
有限会社 石信工業 石塚 信之

皆様、お疲れさまです。

日ごろは協議会活動にご協力を賜り誠に有難うございます。

さて、梅雨真っ只中でドライバーの皆さんにとっては雨の中を走行する機会が多くなりいつもよりも慎重な運転が必要な時期でもあります。

雨が降ると路面が滑りやすくなり視界の悪化によって危険の察知が遅れがちになるため雨の日の運転には十分な注意が必要です。

財団法人交通事故分析センターが行った交通事故調査を元に導き出した雨の日の走行事故例ではスリップと見落としによる事故が大半を占めています。

スリップ事故は晴天時の乾いた路面に比べ、雨が降って濡れた路面は摩擦による抵抗が減少して非常に滑りやすくなります。雨の日はスピードを控えめにし、車間距離を多めにとることが事故防止の第一歩となります。特に雨の降り始めが危険です。乾燥した道路に雨が降ると泥やほこりが雨と混ざり合い、まるでオイルをひいたような状態になるため急激に滑りやすくなります。雨が本格的に降ってないからといって油断すると思わぬ事故につながります。

そして、スリップ事故の多くはスピードの出し過ぎによるものです。雨が降り始めたらずぐにスピードを落としましょう。また、前を走る車と接近し過ぎていると前の車が減速した時に急ブレーキを踏むことになってスリップしやすくなります。ブレーキを踏んでから車が止まるまでの距離は晴天時に比べると雨の日は長くなる傾向があるため前の車との車間距離は十分に取らしましょう。

車はタイヤと路面が接地しています。このうちの1本でもスリップすると大きくバランスを崩してしまいます。例えば、横断歩道の停止線などのペイント部分は雨が降ると他の路面に比べて極端に滑りやすくなります。落ち葉の上やマンホール、道路の継ぎ目などの金属部分もスリップを引き起こしやすいポイントです。轍などの水たまりに進入した時はタイヤの溝が摩耗していなくてもスピードが出ていると一時的にブレーキの効きが悪くなることがあります。こうした場所を走行する際には無理な加減速や急ハンドルを控えましょう。

次に見落としですが、雨で車外の様子がよく見えないという状況は自分だけではありません。当然、他のドライバーや歩行者、自転車も同じ状況にあります。雨天時のドライバーの心理として前方の視界情報を確保しようと集中するあまり、周りの状況を意識しなくなってしまうがちです。また、歩行者は傘をさして水たまりを避けようと下を向いて歩いたりするため周囲の車の状況に気づいていない場合があります。雨で視界が悪い時は昼間でもライトを点灯しましょう。ライトを点灯して車がここにいるとアピールすることは事故の防止効果を高めます。視界の悪い雨天時には歩行者の発見が遅れ対人事故が多発する傾向にあります。雨の日は歩行者や自転車も早く目的地へ移動したいという意識から信号が変わる直前や直後にいきなり飛び出してくる場合も考えられます。交差点での右折や商店街、住宅街、通学路などでは特に意識して走行しましょう。

さらに雨天時の夜間では昼夜別の人対車両事故は昼間に比べ約3倍も増えるそうです。周囲が暗くなり始めたら早めにヘッドライトを点灯しましょう。

信号があるから横断歩道があるから大丈夫ではなく、信号があるから横断歩道があるかもしれない、歩行者が横断するかもしれないと予測し減速しましょう。

この後の安全講和で中日本高速道路の方から高速道路での走行に関してのお話があります。一般道路も高速道路も事故を起こさないためにも誰か任せではなく自分が乗る車は日頃から点検をおきましょう。

最後になりましたが梅雨が空いたら夏本番。今年も猛暑と予想されています。

直射日光の当たる外部作業、高温多湿な屋内作業。どの現場も熱中症になりやすい環境です。

健康管理を徹底し夏を乗り切りましょう。**ご安全に！**